

風力発電施設の導入に向けて野鳥保護を考慮したゾーニングのあり方に関する情報収集、調査、普及、提言活動

イベントの
延べ参加者数 52人

イベント参加者
の満足度 100%

活動の全体目標
に対する達成度 30%



ワークショップ開催目的を話す英国側担当者

◆成果と工夫したポイント

- 成果** バードライフ・インターナショナル及びイングランド、スコットランド、アイルランド、ブルガリア、スロベニア、ギリシャ、南アフリカのパートナー団体から、センシティブティマップ作りに係るノウハウを得られた。
- 工夫** バードライフ・インターナショナルにワークショップ開催を委託したことで、マップ作りに関して各国から多くの情報を得られた。



課題

自然保護側と事業者側との間での摩擦を軽減して風力発電を導入するには、センシティブティマップの役割は大きいですが、日本では野鳥配慮型のマップ作りが行なわれていない。

活動内容

英国・ケンブリッジにバードライフ・インターナショナル及びそのパートナー 10 団体を集めて、ワークショップの開催を通じ、各団体で作成したセンシティブティマップの方法論および運用面での課題等に関して、情報収集を行った。3月14日(月)に「風力発電と野鳥の脆弱性マップ作り検討会」を開催して、海外事例を基に、国内で適用可能なセンシティブティマップのあり方や方法論を整理した。



検討会で資料に基づき
説明する担当者

今後の課題

- ・実際のセンシティブティマップ作成に係る現地野外調査の実施。
- ・ワークショップの結果報告に関する資料集の作成。
- ・国内でセンシティブティマップ作成の必要性の認識を広めるシンポジウムの開催。